



発行責任者
校長 原田 尚之

【校長室より】

平成27年度の始めにあたり

こんにちは、24代目の校長として、この度、長崎県立五島高等学校に着任致しました原田尚之と申します。

まず、自己紹介をいたしたいと思います。

昭和59年4月に新規採用の教諭として、この五島高校に着任いたしました。専門教科は数学で、バレーボール部の顧問を担当していました。最初の授業は衛生看護科の2年生で、元気で個性あふれる生徒の中で緊張して授業をしたことを思い出します。その後、島原高校に転勤し、平成3年4月に再び五島高校に着任いたしました。今回で3回目の着任となります。私にとって五島高校は教員としての原点を教えていただいた学校です。先輩の教員の方々、地域の方々や生徒の皆様から多くのことを学びました。五島高校のために一生懸命がんばりますので、よろしくお願ひいたします。

さて、自己紹介は以上ですが、以下、入学式でお話しいたしました内容の一つを転載することで、私の思いを保護者の皆様にお伝えしたいと思います。

新入生の皆さん。いよいよ今日から本校の生徒として新しい生活が始まります。この記念すべき日にあたり、皆さんにこれから五高生としての心構えについて、私の所感を述べたいと思います。

それは「志を立て、努力を継続せよ」ということです。

海岸に大きく広がる砂浜を歩くと、自分は真っ直ぐ歩いたつもりでも、後で振り返れば足跡はかなり蛇行しています。人は、あの松野期を、あの岩を、と目標に決めていけば、自然に真っ直ぐに歩けるものです。人生を歩むときも同じように、その時々目標を持ち、その目標に向け、ひたすらに努力していくことが、確かな成功への道を辿ることになります。

ところで、人は誰でも個性を持ってこの世に生まれます。その個性を磨き、世のため、人のために尽くすことが、社会を生きるうえでの責任であり、義務でもあります。皆さんは、これから、自分の個性と向き合い、自分の個性を磨き、どのような花を咲かせるのかを考えなければなりません。「梅は梅、桜は桜」百人いれば百通りの花が咲かなければならないのです。

「志を立てる」ということは、自分がどんな花を咲かせるかを決めることなのです。

ところが、この花は、放っておくとすぐに枯れてしまいます。絶えず手入れをする必要があります。時期に応じて肥料を入れたり、水をかけたりと、時間をかけて、ゆっくりと育てていかなければなりません。

つまり、志を立てた後の努力が、とても重要なのです。

我々人間は、弱い生き物です。努力を継続することは簡単なことではありません。しかし、皆さんのまわりには素晴らしい仲間がいます。自分にはない素晴らしいものを持っている同輩や先輩がいます。そして、それを一生懸命サポートしてくれる先生方がいます。仲間の良いところを取り入れ、この世に一つしかない自分の花を咲かせてもらいたいと思います。

高校の三年間は、人生の中でも、とても重要な三年間です。歳を重ねてきた我々、大人の三年間の比ではありません。皆さんは、これから世に貢献する社会人として様々なことを身につけなければなりません。時間は皆さんに平等に与えられています。それぞれの花を咲かせるため、それぞれの目標に向け今日からスタートです。

春風の中に、新しい一歩を踏み出す新入生の皆さんが充実した高校生活を送りますよう祈念しています。

以上のお話しをさせて頂きました。県下有数の伝統校、そして確固たる進路実績を有する五島高校に赴任し、心引きしまる思いであります。

教職員一同 新たな気持ちで五島高校の生徒の指導に邁進致します。今後ともよろしくお願ひいたします。

入学式 8日(水)

春の日差しが降り注ぐ中、本校体育館にて入学式が行われました。国歌斉唱の後、新入生164名が原田校長から入学を許可されました。校長式辞においては、新入生に対して「志を立て、継続すること」「自分を大切にすること」など入学についての心構えをお話していただきました。また、「粘り強く取り組み、努力を継続してほしい」というメッセージや、「他人を幸せにするためには自分が幸せであることが大事である」との言葉をいただきました。入学したときの気持ちを忘れることなく、常に未来に向かって輝く五島高校生になってほしいと思います。新入生代表宣誓では5組の横枕拓八君が「学業に専念し、五島高校の伝統の継承と新たな歴史の創造に邁進します」と宣誓を行い、新入生による初々しくも力強い校歌が体育館に響き渡りました。



入寮式 8日(水)

4月8日(水)、本校メモリアルホールにおいて、入寮式が行われました。今年度は男子9名、女子10名、計19名が入寮しました。式では校長先生から激励のお言葉をいただいた後、入寮生を代表して1年2組の八代元映君が誓いのことばを宣誓してくれました。

慣れない環境の中での集団生活は、不安になることもあるかもしれませんが、しかし、寮生活で得ることができる経験は、こらからの人生でかけがえのないものになるはず。先生方や先輩方の指導を受け、1日でも早く寮生活に慣れ、五島高校での生活を充実したものにしてくれることを、職員一同期待しています。

対面式 9日(木)

4月9日(木)に対面式が行われました。1年生は初の先輩達との対面ということで、やや緊張しながら入場してくる中、2、3年生が温かく迎え入れました。まず、生徒会長の青山睦さんが挨拶を行い、続いて、1年7組の堤楓さんが新入生を代表して「不安も多いですが、先生方、先輩方、ご指導をよろしくお願いします」と挨拶をしました。

その後は生徒会による生徒会行事と役員紹介や新転任の先生方の個性溢れる自己紹介も行われ、生徒たちの顔にも笑顔が見られました。最後に、2、3年生による「蒼き故郷」の歓迎合唱、そして、全校生徒で校歌を斉唱し、新たな出会いへの喜びを大きな声で表現しました。

新入生や新転任の先生方を迎え、五島高校の27年度がスタートしました。今までの伝統を引き継ぎながらも、一人一人が個性や力を発揮し、飛躍し続けるような五高生活を送っていきましょう。

新入生宿泊研修 13日(月)～15日(水)

4月13日(月)～15日(水)の3日間、国立諫早少年自然の家において1学年の宿泊研修が行われました。この3日間で「真の五高生になる」ことを目標に、様々な活動を行いました。集団行動、校歌遠征歌の練習を通して団結することの大切さを学び、全力で取り組みました。あいにくの天候の中、臨機応変に生徒も対応し、無事に研修を終えることが出来ました。二日目の五家原岳登山では迂回して車道のコースを歩くことになりましたが、山頂ではクラスごとに写真撮影を行い、協力し合って頂上まで辿りついた達成感をにじませる表情が見られました。夜には自学の時間があり、静まりかえった集団の中で、黙々と学習に励みました。この経験も今後の学習に大いに役に立つと思います。また、卒業した先輩7名による講話では、「学習について」「部活動との両立について」などそれぞれがわかりやすく話をしてくれました。最後はクラス対抗の「集団行動コンテスト」「校歌・遠征歌コンクール」行われ、それぞれのクラスでまとまりが生まれたように感じます。

この研修の目的は、学年やクラスの融和を深め、五島高校生としての誇りや自覚を身に付けることでした。様々な活動を通して、集団における規律の大切さやクラス毎に協力してひとつのものを作り上げることの素晴らしさを学ぶことができました。この研修で学んだことを日常の中で継続して実践し、この3日間を高校生活の原点として今後の生活に活かしてほしいと思います。

集団行動コンテスト

優勝 6組
2位 7組・5組

校歌・遠征歌コンクール

優勝 1組
2位 5組
3位 4組

夜の自学の様子です。→
集中していました。



普通科67回生・衛生看護科40回生 結果総括

進路指導部

- ① 国公立大学合格者数73名（昨年度80名）
- ② 国公立大学合格率50.3%（昨年度55.6%）
- ③ 難関大合格者数3名（名古屋大学1名、九州大学2名）
- ④ 公務員合格者（自衛隊除く）3名（五島市役所・五島市消防・東京消防庁）
- ⑤ 衛生看護科：准看護師資格試験全員合格（17名）

※合格者数は現役生のみ延べ人数

学校全体で見ると、昨年度との比較では数字的にやや見劣りするような結果となりました。しかし、それぞれに個々の進路目標に向かって粘り強く取り組む姿も多く見られました。早く進路が決定した生徒も、まだ決まっていないクラスメイトのためにも、率先して学習に取り組んでいたように思います。他者を思いやるやさしい生徒が多く、我々が助けてもらう場面も多かった学年でした。卒業生のこれからの活躍に期待したいと思います。

新転任の先生方



校長	原田 尚之	数学	教育庁高校教育課より
事務長	原口 博光	事務	島原高校より
教諭	石尾 和貴	地歴	教育庁学芸文化課より
教諭	本多 秀典	保体	長崎北高校より
教諭	谷口 享	数学	西陵高校より
教諭	吉田 真也	公民	長崎南高校より
教諭	堤 理恵	物理	佐世保西高校より
教諭	岩元 一章	保体	島原高校より
教諭	林田真那美	保体	口加高校より
教諭	飯塚 貴之	国語	新規採用
教諭	長尾かおり	地歴	新規採用
主事	松本 優美	事務	新規採用
講師	中島 睦美	家庭	
事務嘱託	山口美恵子	事務	
非常勤講師	楠本 信秀	数学	
非常勤講師	岡野 泰大	英語	

分掌・学年主任の先生方

教務部	増本 欣也	衛生看護科	西村 章子
生徒指導部	引地 勝	スポーツ	濱口 嘉洋
進路指導部	阿比留憲一	寄宿舍	七條 克広
生徒会指導部	島崎 英範	第1学年	谷口 享
保健・相談部	茶園 孝一	第2学年	淵上 透
研修図書部	永山 一朗	第3学年	久保田幸成

（今年度より、今までの保健美化部の保健分野を保健・相談部が、美化分野を生徒指導部が行うことになりました）

各学年より

「覚悟」と「決意」

1学年主任 谷口 享

第1学年のみなさん、五島高校への入学おめでとう！みなさんの入学を心から歓迎いたします。そしてこれから始まる3年間の高校生活において、君たちが大きく成長してくれることを期待しています。

さて、4月8日に入学して以来、課題テスト、対面式、スタディサポート、そして諫早少年自然の家での2泊3日の宿泊研修、部活動入部会等々と、本当に毎日が慌ただしく過ぎていったことでしょうか。宿泊研修で学んだ、礼儀やマナー、挨拶や集団行動は毎日の生活に活かしていますか？宿泊研修では教頭先生から「覚悟を決める」というお話がありました。「覚悟」という言葉は、私もとても大切にしている言葉の1つです。それから2週間、君たち一人ひとりの「覚悟」と「決意」は決まったでしょうか。人が「覚悟」を決めたり、「決意」をするときというのは、大なり小なり、自分の目標に立ち向かう時だと思えます。そして君たちは、今まさに人生の大きな分岐点から、また新たな目標に向けてスタートをきろうとしているのです。そこには自分の信じた道へ進むだけの強い“意志”が必要であり、それと同時に何かを捨てる“勇気”も必要であると思えます。怠けたい気持ちや遊びや趣味に費やす時間、毎日携帯電話に使っている時間など、君たちが3年間という限られた時間の中で、これから先の人生に繋がる大きなものを手に入れるためには、これらのものを捨てる勇気が必要だということです。「過去と他人は変えられない。でも、未来と自分を変えられる。」これから3年間の君たち一人ひとりの頑張り次第で、君たちの未来はどのようにでも変えることができます。1年生諸君、これから五島高校で「覚悟」と「決意」を持ち、しっかりと自分自身を鍛えて、自分の未来を自らの手で切り拓いていきましょう。

各学年より

「2学年のみなさんへ」

2学年主任 瀧上 透

4月8日にクラス発表があり、これまでとは違う環境に身をおいたときに「新しい1年が始まった」と自覚し、9日に真新しい五高の制服に身を包んだ1年生を目にしたときに「2年生になった」という実感が湧いたことでしょう。4月は新しい「決意」をしやすい時期だといわれています。校内ですれ違う生徒の多くが、不安よりも頑張ろうというプラスのオーラを放っているように感じます。

私自身の今年の決意は、「変わり続ける」ことです。家庭での自分、学校での自分、学校では2学年主任として、英語教師として、年配(?)教師としての自分…などなど、一人の人間には様々な立場や役割が与えられていますが、どの立場や役割においても「昨年同様」でありたくないし、あってはならないと思っています。ある先生が「現状維持は下降線」とおっしゃっていましたが、まさにそのとおりだと思います。昨年一年を振り返っても反省すべきことがたくさんあるので、同じ状態を維持することがいいはずはないのです。自分を変えた点を1つ紹介させてもらおうと、「いいと思ったことはとりあえずやってみる」ことにしました。前までは、ああだこうだと考えているうちに結局は実行せずじまいということが多かったので、今年はとにかくやってみて、結果が出てからしっかり検証することにしました。

生徒のみなさんも、去年と同じ自分で満足せず、変わり続けてください。まずは今までと何か1つでもいいので変えていきましょう。そういえばchangeという単語はgという文字をcに変えればchanceですね。何か1つでも変えていくことがチャンスにつながるかもしれませんよ。よかったら、ぜひ試してみてください。アメリカの作家ソローの言葉を添えておきます。

Things do not change; we change. (物事が変わるのではない、我々が変わるのだ。)

「今しかない」

3学年主任 久保田幸成

まだあとけなさが残る表情で入学してきたのが2年前。月日の流れは早いなあ実感しています。さて年度のスタートにあたり、ご挨拶と学年の決意を述べさせていただきます。すでに生徒には「今年は勝負の1年だ」ということを強調して話をしました。それは進路選択に妥協せず、自分と、他者と戦おうという様々な意味を含めています。進路決定の際は、「本当に自分は勝手だな」とか「自分はこういう仕事をしたいのだ」など良くも悪くも「自分」がよく見えてきます。可能性は挑戦することで広がるという考えは、生徒・保護者・教職員全員が共通理解しておきたいことです。

次に「今しかない。ここしかない。自分しかない」という3学年スローガンについて話します。きっかけは前全日本女子バレー監督の柳本晶一さんが、五島の中高生に「今しかないと思うか、まだ時間はあると思うか。君たちの考え方で結果は変わる」という言葉を贈っていただいたことで、この1年で大きな成長を遂げるには、この考え方が必要だと思います。また冒頭に述べた「勝負」をものにするには、現状に妥協せず、今、ここで、自身と戦っていかねばならないと考えます。

教育学者の齋藤孝氏は著書『余計な一言』で、現代社会のリーダーとして求められる最も重要な資質を「自分でリスクが取れる人。その場合のリスクも考え、その上でチャレンジして責任をとる覚悟を持てる人だ」と語っています。また「成功者は『できたらやる、条件が揃ったらやる』とは言わない。これらの言葉はただ不安を表しているだけだ。『やると決めたらやる。何が何でもやる』そのひと言だ」とも述べています。まあリーダーになるかどうかは別として、現代社会を生き抜く上では、決めたことに対して自分に猶予を与えない。その覚悟と行動が必要です。

高校生活の集大成ともなる今年、生徒には勝負をさせたいと考えています。保護者の皆様と3学年団全員で生徒のバックアップをしていきましょう。

PTA総会のご案内 5月23日(土)

PTA総会・学級懇談会を5月23日(土)に開催します。多数の保護者の皆様の御参加をお待ちしています。

今年度は総会の後に、「メディア安全教育(問題点と具体的な対応策)」と題して、メディア安全指導員の宮崎孝様より主にスマートフォンの使用について御講話をいただきます。その後、学級懇談会となります。是非お越し下さい。

午前中	公開授業	13:30	PTA総会	15:30	学級懇談会
12:30	受付開始	14:30	講演会		